

こども若者★いけんぷらす いけんひろば

「結婚」「子育て」したい？したくない？

フィードバック資料

令和6年7月28日（対面開催）

令和6年7月29日（オンライン開催）

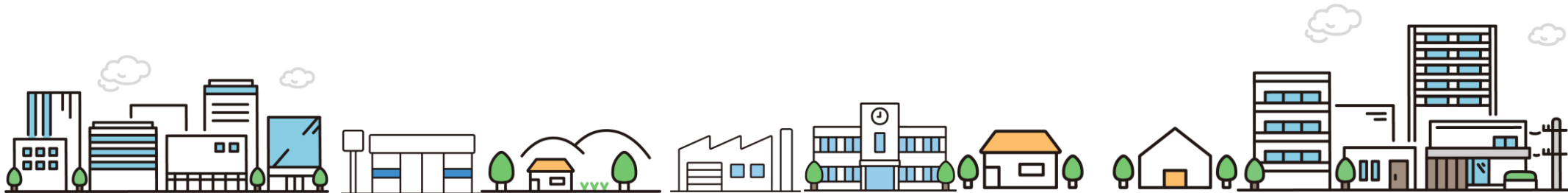


1. 開催概要（対面/オンライン）

2. 意見の活用について

- ① 若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループへの意見の活用について
- ② 令和7年度概算要求への意見の活用について


3. こども家庭庁（テーマ担当省庁）より



1. 開催概要

テーマ	「結婚」「子育て」したい？したくない？
担当省庁	こども家庭庁
参加対象者	ぷらすメンバーのうち、高校生世代～20代
テーマ説明	結婚や子育てに対して、若者がどのような認識や課題感を持っているかについて、ご意見をいただく。

対面回

開催日時	令和6年7月28日（日）10：30～12：30
開催場所	こども家庭庁（東京都千代田区霞が関3丁目2番5号 霞が関ビルディング）
参加人数・グループ数	<ul style="list-style-type: none">➢ A班・・・社会人世代5名➢ B班・・・高校生世代・大学生世代3名➢ C班・・・高校生世代4名➢ D班・・・大学生世代5名 

オンライン回

開催日時	令和6年7月29日（月）19：00～21：00
開催場所	Webex
参加人数・グループ数	<ul style="list-style-type: none">➢ A班・・・高校生世代4名➢ B班・・・大学生世代3名➢ C班・・・社会人世代4名



今回のいけんひろばでいただいた意見は、
「若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ」での
会議資料や中間報告のほか、令和7年度予算概算要求
に活用いたしました。

・ 「若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ」について

政府では、結婚、妊娠・出産、子育ては個人の自由な意思決定に基づくものであって、多様な価値観・考え方を尊重することが大前提だと考えています。その上で、若い世代の方々が、自分の意思に基づいて、結婚し、子どもを産み、育てたいと望んだ場合に、**それぞれの希望に応じて社会全体で若い世代を支えていくことが重要**だと捉えています。そのため、若い世代の方々がどのような考えや価値観を持っているのか耳を傾け、結婚や子育てに関する様々な希望を実現したいと思ったときにハードルとなっていることは何か、どのように解決していくと良いのか、**若者当事者や有識者からしっかりと意見を聴き、解決にむけて検討していくため、内閣府特命担当大臣（以下、「大臣」という。）のもと、「若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ」を開催しています。**

・ 「令和7年度予算概算要求」について

「概算要求」とは、各省庁が次年度の予算（お金をいくら何に使ってよいか）の見積もりを財務省へ出すこと、またはその内容のことです。この概算要求についての財務省と各省庁との話し合いを経て、年末に予算案（次の年度にお金をいくら何に使ってよいか）が固まります。

※参考：若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループに関する情報は、下記のこども家庭庁のHPに公開しています。

<https://www.cfa.go.jp/councils/lifedesign-wg>

2-①. 若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループへの意見の活用について



いけんひろばでいただいた意見は、
「若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ第3回」にて、事務局から内閣府特命担当大臣や委員に対して報告されました。
また、それらの内容も含めて、「議論のまとめ（中間報告）」として取りまとめ、令和6年9月6日に、内閣府特命担当大臣へ手交されました。

若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループにおいて、意見を反映した資料

第3回の会議資料

資料6

こども若者★いけんぶらす 実施報告

■ テーマ ■
 「結婚」「子育て」したい？ したくない？

開催日時
 対面：令和6年7月28日（日）10:30~12:30
 オンライン：令和6年7月29日（月）19:00~21:00



こども家庭庁 Q1. 将来結婚したり子育てしたいと思っているか。 高校生・高専生

- 一人であるのが寂しいから結婚はしたい、助け合える信頼できるパートナーがほしい。(男性3)
- 結婚はしたい。単純に憧れがある。ドラマなどの夫婦のシーンをもっと憧れる。(女性1)
- 結婚はしたいし、子育ては可愛いので、夫婦二人三脚で生活したいが、経済的不安と、自分の自由が減ってしまうことへの不安がある。(女性2)
- 結婚はしたいが、自分の好きなことがなくなることや、育児を取ることに伴う目の回りや、職場の働き方がブラックなのでは不安に感じることが多い。(女性4)
- 結婚はしたいが、子育てに関しては命を育てるという意味に惹かれ、それと考えると価値がない。(女性3)
- 自分の親を見ていて、収入の大部分を子育てに使っているのではと感じる。教育費や老後の資金を考えると、自分に余裕がなさそうと思う。(男性2)
- 相手によるが、近所に行く距離が遠いから、質素と諦める。対人関係でデメリットは感じる。(男性3)
- 子育ては出来ない、自分の子供が現状でいいからしたくないと思う。結婚に特別なステータスを感じない人は多いと思う。(男性1)
- 20代後半～30代前半に、仕事に慣れてきたところで結婚したい。(男性3)
- こども程度には考えなくて28～30歳までは結婚したいと思っている。高給出賃は欲しいイメージがある。(女性1)
- こどもが欲しい。世帯の年収次第な感じ。自分が一人子なので、2人は絶対欲しい。(女性2)
- 出会いの問題は、同じ価値観を持つ人が多い大学やサークルなどで探したい。(男性2)
- どこかに対する偏見は減らしている気がする。公園で遊ぶ機会が禁止されたので、どこか遊びたい気持ちはない。(女性1)
- 大学を出たばかりならば、最終手取りでヤングケアラー待遇も欲しいと思うが、キャリアの必要がある。(男性3)
- 男性が育児を尊重しているが、実際に育児に理解が深まっているのではと思う。(男性2)
- 育児を尊重し、その仕事に誇りや責任感がある企業に入りたい。それは理想であるし、心地よく育児ができる環境にしたい。(女性2)
- ドラマで、男性が育児を取ると言ったら周囲から引かれるシーンを見て、出産予定日から逆算して仕事を辞めたいくらい。(女性1)

議論のまとめ（中間報告）の資料

若い世代の描く
 ライフデザインや出会いを考える
 ワーキンググループ

議論のまとめ
 (中間報告)

令和6年9月6日

こども家庭庁「議論のまとめ（中間報告）」の発行について

「こども家庭庁」は、令和6年9月6日（金）に開催された「若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ」第3回の議論のまとめ（中間報告）をまとめた資料として、令和6年9月6日に発行しました。この資料は、若い世代の描くライフデザインや出会いに関する意見や要望をまとめたものであり、今後の政策の検討に活用される予定です。

この資料は、令和6年9月6日に開催された「若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ」第3回の議論のまとめ（中間報告）をまとめた資料として、令和6年9月6日に発行しました。この資料は、若い世代の描くライフデザインや出会いに関する意見や要望をまとめたものであり、今後の政策の検討に活用される予定です。



2-①. 若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループへの意見の活用について



いけんひろばでいただいた意見は、
議論のまとめ（中間報告）を作成するときに活用いたしました。

みなさんの意見

- 幸せの在り方が多様化してきた。
- 結婚しなくてもパートナーと一緒に暮らすことはできる。
- 周りから強要はされたくないもの、将来的には結婚・子育てしたいと思っている。
- 今は趣味などの自分の時間を大切にしたい。
- 社会人になり、3年間キャリアを積んだあとに結婚するのが理想的だと思っている。
- 十分な収入を得て、自分以外にお金を使えるようになるのが30歳頃。
- 結婚の優先順位が下がってきているのだと思う。
- 自分がやりたいことと、結婚や子育てとが両立できるかわからない。
- 信頼できるパートナーがいることで、お互い支え合えるという安心感が得られる。
- 結婚はしたいと思う気持ちと、したくない気持ちがある。
- 小さい子をお世話した時にやりがいを感じたので子育てはやりたい。
- 妊娠・出産・育児について、知識面で身につけていないのが未知数なので不安。
- 父親の育休の制度はあるものの利用しづらいと感じる。将来、休みを取りたいがためらいそう。
- 結婚では、夫婦が家事・育児をどれだけやれるかが大事であり難しいと思う。

いただいた意見の反映

4. 若い世代の現状認識や価値観に関する主な意見等

議論のまとめ（中間報告）より

- 結婚、妊娠・出産、子育てという言葉に対するイメージや価値観が今と昔で同じなのかという点を考えることが重要である。
- 今の若い世代は、「他人や社会にとっての正解」よりも「自分自身が納得できているか（自分なりの納得解）」を大切にする傾向がある。
- 親の世代が若い頃を過ごしていた時代と、自分たちが生きている今の時代とでは、社会で通用している価値観や選択の幅が大きく異なっていると感じている人もいる。
- (1) 恋愛・出会いについて
 - 若いうちほど、いつでも出会える、まだ結婚を考えるには早いといった思いが働き、恋愛や結婚よりも、別のやりたいことを優先しがちで、30代に差し掛かる辺りから、（中略）出会いや結婚を意識し始める人が増えるという傾向が見られる。
 - 限られた時間を現実の恋愛をすることに使うことよりも、それ以外の楽しみに使いたいと考える若者が多くなっている可能性もある。
- (2) 結婚について
 - 結婚については、「何となく、するかしないか迷っている」あるいは「いい人がいればでもいいけれど、深くは考えていない」といった状況にある若者も少なくない。
- (3) 妊娠・出産、子育てについて
 - 乳幼児の世話をした経験や、妊孕力に関する知識を得たとき、ライフプランについて考える授業を受けたときなどは、こどもに興味を持ったり、妊娠・出産について自分事として考えたりするようになるきっかけとなりうる。
- (4) 経済的状況などについて
 - 今の若い世代では、子育て期も夫婦ともに仕事をや辞めずに働き続けることを理想の夫婦像と考えている人が増えてきている。
 - 育児休業等の制度があっても職場の雰囲気から取得を控えたり退社を選択したりする状況（中略）が、「わざわざ結婚しようとは思わない」「結婚にメリットを感じない」と若い世代が思う背景の一つにあると考えられる。

2-①. 若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループへの意見の活用について



いけんひろばでいただいた意見は、
議論のまとめ（中間報告）を作成するときに活用いたしました。

みなさんの意見

- 同世代の夫婦や子育て中の人から話を聞くのが良い。
経験しないとわからないことがあるし、実体験を交えてくれるとイメージしやすい。
- 中学または高校の総合の授業で人生について考える機会があったと思う。
- 自発的にライフプランニングすることはあまりない。計画する機会を設けてもらうのは有意義なことだと思う。
- マッチングアプリは、もう少しセキュリティがしっかりしたらいい。
- マッチングアプリで「詐欺にあった」「お金だけ取られた」「マッチした相手が約束の場所に来なかった」という話を聞くと、万が一同じことがあったら嫌だなと思う。
- 自治体のアプリはセキュリティがしっかりしていると聞く。それを大々的に説明したら安心して使えると思ってくれる人が多そう。
- 社会全体が結婚や子育てに対するサポートや配慮をしないと、SNSでネガティブな情報に触れている人等は結婚に後ろ向きになると思う。
- SNSでインフルエンサーを活用してPRし、結婚に対するイメージを変えていくのがよい。発信は発信者が誰かということが大事。
- 経験者から実際に話を聞けることが大切だと思う。色々な人から話を聞くことで困りごとの防止や解決ができると思う。
- 社会の意識を変えるところから必要。
- 結婚したいと思っている人の中から、どれだけ結婚する人を増やせるかが大切だと思う。

いただいた意見の反映

5. 今後の取組に関する主な意見等

議論のまとめ（中間報告）より

(1) ライフデザインに支援について

- 近い世代の様々なロールモデルとの出会いを通じて、様々なケースを体験したり、学ぶことが出来たりする機会を提供していただくことが重要である。
- ライフデザインを考える上では、将来の選択に関わる事実の知識と、実際に体験して得られる実感の両方が重要である。
- 学校との連携については、結婚やこどもに関する人生の選択を自分事としてまだ感じていない人も、学校の授業を通して自然に参加できるという観点で重要である。

(2) マッチングアプリ・結婚相談所について

- マッチングアプリの安全面について不安を感じている若者も多い。
- マッチングアプリを利用することでトラブルに巻き込まれないかといった不安を感じている人も少なくないといった意見があった。

(3) 行政が提供する出会い・結婚支援について

- 行政の出会い・結婚支援サービスには、（中略）セキュリティや利用者の本人確認といった安全面にメリットを感じる人も多い。（中略）こうした点は、結婚を前向きに考えている若者利用促進を図る上でもアピールポイントになりうる。

(4) 若い世代による情報発信等について

- 情報収集の手段がインターネットに偏っている人ほど、結婚やこどもをもつことに対してネガティブなイメージを抱きやすいのではないかといった意見があった。
- 結婚、妊娠・出産、子育てに関する情報発信については、若い世代自身の意見・アイデアや協力を活かして、若い世代に伝わる方法で行う必要がある。
- 結婚、妊娠・出産、子育てを経験した多様なロールモデルと若者が直接交流する機会をつくることでポジティブな社会機運を醸成することが必要である。

6. まとめ

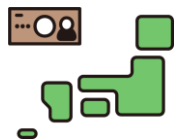
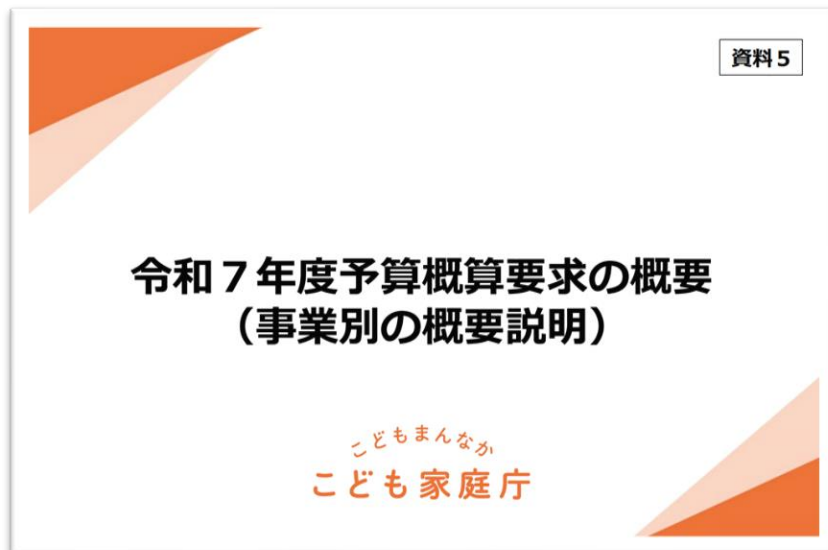
- 結婚を希望する若者は、出会いや結婚を応援する社会的気運を重視しており、特に、結婚やこどもを望んでいる人に対して周囲が適切な助言やケアを行うことに対して寛容な社会的気運の醸成を必要としている。



いけんひろばでいただいた意見は、

「令和7年度予算概算要求」において、「若い世代のライフデザインの可能性の最大化」の施策に反映しました。施策の当事者である、若い世代の皆さんの意見を踏まえて、こども家庭庁では、ライフデザインの推進や、官民連携した結婚支援、若い世代による情報発信などを行うための予算を来年度の概算要求に盛り込みました。（概算要求 令和6年8月30日）

「令和7年度予算概算要求」において、「若い世代のライフデザインの可能性の最大化」の施策に反映



第2 若い世代のライフデザインの可能性の最大化と社会全体の意識改革等

令和7年度概算要求の概要資料より抜粋

1 若い世代のライフデザインの可能性の最大化

(1) 若い世代によるライフデザインに関する情報発信等【拡充】

- 若い世代が抱える将来に対する不安や課題感について、若い世代自らが調査・発信するプロジェクトの推進や、世代ごとのニーズを捉えた、結婚・子育てに係るデータや支援制度等に関するコンテンツ開発や公開等を通じて、結婚や子どもを生まみ育てることを含め、自らのライフプランを前向きに選択できるような広報・啓発を行う。

(2) 民間企業等と連携したライフデザイン支援【新規】【推進枠】

- ライフデザイン支援の取組を推進していくため、民間企業等が若い世代向けのサービスや商品と連携させながら、ライフデザインを応援するプロジェクトを実施する取組を支援するとともに、社員・従業員向けに実施するライフデザインをサポートする優良な取組について支援を行う。

(3) 地域における結婚支援事業等への支援強化（地域少子化対策重点推進交付金）【拡充】【一部推進枠】

- 結婚、子育てに関する地方公共団体の取組（結婚に対する取組、結婚、妊娠・出産、子育てに温かい社会づくり・機運の醸成の取組）を支援するとともに、結婚に伴う新生活を経済的に支援する結婚新生活支援事業（新婚世帯を対象に家賃、引越費用等を補助）の取組を支援する。また、「結婚支援事業者との官民連携型結婚支援」に係る取組を重点メニューとして新たに加えるなどの拡充を行う。

① 若い世代のライフデザイン設計への支援

- 若い世代が、将来の様々なライフイベントに柔軟に対応できるよう、「地域少子化対策重点推進交付金」の重点メニューに、ライフデザインセミナー等又は子育て家庭や子どもとの触れ合い体験の取組を行う「若い世代の描くライフデザイン等支援」を新たに加えるなど、地方公共団体の取組を重点的に支援する。

※参考：令和7年度の概算要求に関する情報は、こども家庭庁のHPで公開しています。□

<https://www.cfa.go.jp/policies/budget>

2-②. 令和7年度予算 概算要求への意見の活用について

みなさんの意見



- 社会に出るまで国の制度や支援、税金、お金の使い方に関することを教えてもらう機会はなかった。
小・中学生には、概要を教え、高校生にはより実用的な内容を教えた方が良い。
- 小さい子をお世話した時にやりがいを感じたので子育てはやりたい。（再掲）
- 同世代の夫婦や子育て中の人から話を聞くのが良い。
経験しないと分からないことがあるし、実体験を交えてくれるとイメージしやすい。（再掲）
- SNSでインフルエンサーを活用してPRし、結婚に対するイメージを変えていくのがよい。発信は発信者が誰かということが大事。（再掲）
- 妊娠・出産・育児について、知識面で身につけていないのが未知数なので不安。（再掲）
- 地域やジャンルごとにどんな支援があるのか、どれくらいのお金が必要なのかなどを網羅的に掲載しているWebサイトがあれば良い。

みなさんからいただいた意見を踏まえ、
令和7年度の概算要求にも反映されました。

第4回ワーキンググループで、みなさんの意見を反映させた議論のまとめを説明



“若い世代のライフデザイン支援に向け、自分たちに近い世代の様々なロールモデルとの出会いを通じて、様々なケースを体験したり学ぶことができる、そういった機会を提供していくことが重要”



“ライフデザイン支援は、社会人になってからも色々なタイミングで実施していくことが大事”

いただいた意見の反映

若い世代によるライフデザインに関する情報発信等

● 若い世代によるライフデザイン等に係る広報・啓発

若い世代主体のプロジェクトチームを組成し、若い世代が抱える結婚や子育てに対する不安や課題感に対して、テーマを設定し、**自らが若い世代に「刺さる」効果的な情報発信を行う**ことを目指す。

若い世代が、さまざまな支援制度や健康管理等について正しい知識を身に付けたり、身近なロールモデルに触れ、幅広い選択肢を知ることにより、こどものいる人生をイメージできるようになったり、結婚やこどもを子育てることを未来の選択肢としてポジティブに捉えられるようになるなど、それぞれの価値観に基づき能動的に人生を選択できるようになることを目指す。



● ライフステージごとのライフデザイン支援プログラムの開発・公開

若い世代の持つ意識や課題感がライフステージによって異なることを踏まえ、**それぞれのステージにおけるニーズを的確に捉えた、結婚・子育てに係るデータや支援制度等に関するコンテンツ開発や公開**を行う。

これにより、正確な情報を知ることによる漠然とした不安の軽減と、若い世代が希望するそれぞれの選択を社会全体で応援する気運を高めることを目指す。





みなさんからいただいた意見を踏まえ、
令和7年度の概算要求にも反映されました。

みなさんの意見

- 働き方に関する情報は欲しい。周囲の友人も子育てで自分のキャリアがストップすると考える人が多い。
- 幼稚園や保育園のお迎えに間に合う時間に退社できる会社の雰囲気や制度があるといい。

- 産まれた時から世話をしないと男性はパパである自覚が出ないと思う。赤ちゃんの時から関われる機会を夫婦で持つことが大事。
- 結婚や子育てについて、身近に相談できるところがあるといい。
- 安心して子育てできる場所が地域にあると良いと思う。
- こどもの存在が自然に目に入る社会になると良い。

いただいた意見の反映



民間企業等と連携したライフデザイン支援

- **民間企業等による若い世代向けライフデザイン応援プロジェクトの支援**
民間企業等が、若い世代の社会人に向けたサービス・商品と連動させ、**それぞれのライフステージにおけるニーズを的確に捉えたライフデザイン応援プロジェクトを支援**する。
- **民間企業等の社員・従業員向けライフデザインの支援**
民間企業等が、**社員や従業員に向けたライフデザインをサポートする優良な取組について支援**する。

地域における結婚支援事業等への支援強化

- **地域少子化対策重点推進事業**
結婚、子育てに関する地方公共団体の取組（結婚に対する取組、結婚、妊娠・出産、子育てに温かい社会づくり・機運の醸成の取組）を支援する。
 - (1) **ライフデザイン・結婚支援重点推進事業**
若い世代の描くライフデザイン等支援
 - (2) **結婚支援コンシェルジュ事業**
 - (3) **結婚、妊娠・出産、子育てに温かい社会づくり・機運醸成事業**
自治体間連携を伴う取組、地域全体で結婚・子育てを応援する機運の醸成、男性の育休取得と家事・育児参画の促進等

こども・若者のみなさんから聴いたご意見は、
中間報告や予算要求資料として使用されるなど、
施策の方向性や具体化の議論において活用されました。
多くの意見をいただき、ありがとうございました。

